

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



2018/05/20

「過労死ライン」の教員 中学57%
小学校の61% ニュー六年度の公立校教員
の勤務実態調査結果
文科省の音頭で勤務時間削減に取り
組む自治体は増えているか
小学校の英語教育やアクティブ・ラーニン
グ(能動的な学習)キョリア教育など
学校現場には新たな「宿題」が課され
ていく。

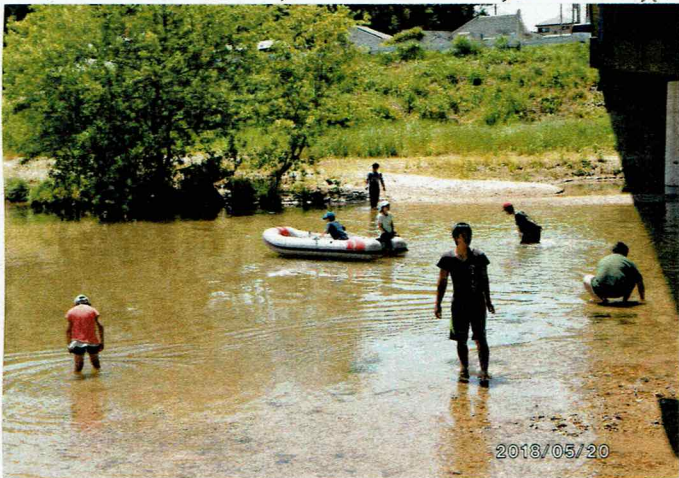
アクティブ・ラーニング 学校役割増加の 一途

財政的な制約から
教員の大規模な増員
は難しく、文科省が
外部人材を活用し
た「チーム学校」で難
局を乗り切ろうとし
ている。
特に中学校では部
活動が長時間労働
の温床との批判が
ある一方で、部活動に
やりがいや実績を
求めて手放したくない
教員も少なくない。
国も行政も地域に
子どもを支える組
織やリーダーが育つ
また力を傾けて行
くことが必要である。



2018/05/20

川の水深を計測している風景。



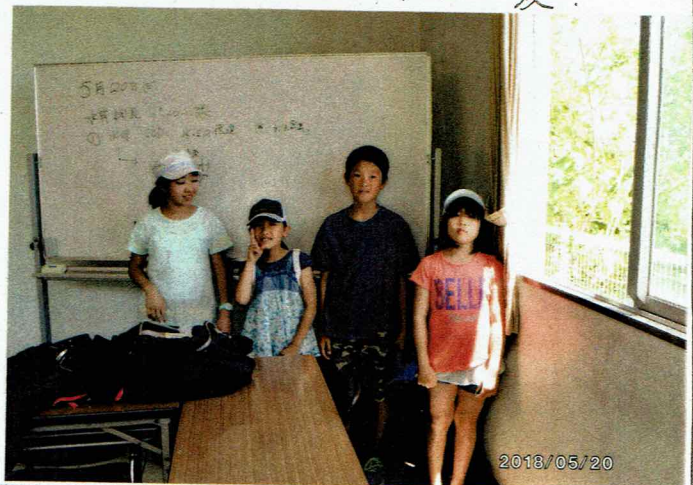
2018/05/20

▲ 川の流れるゆえに、魚を追い回しているがコイが夏らしい。
▼ 子供達もゴムボートに乗るのも初めてであり、セーフティジャケットも着用せず水辺を巡回した。

平成三十年
五月二十日(日)
天気晴 温度二十六度
水質調査
パトロール隊小学生
4名
場所 矢田川
宮下橋ガード下での
調査開始
集合
宮浦会館に五別
十時集合
まはらみ学園生徒
六名参加
小学生をカイトする
役割するため
ボランニア参加。



2018/05/20



2018/05/20